



このコーナーでは、病院で取り組んでいる様々な事業を紹介します。

緩和ケアセンターについて

緩和ケアとは、身体や心などの様々なつらさを和らげ、より豊かな人生を送ることができるよう支えていくケアのことです。当センターでは医師、看護師、臨床心理士、理学・作業療法士、社会福祉士、栄養士、薬剤師などの多職種が連携して、がん患者様やご家族のサポート活動、医療スタッフ向けの研修会の開催といった活動を行っております。

患者様とご家族へは入院・外来双方で、疼痛や不眠などの症状、あるいは生活や将来への不安を緩和することを目的に活動しております。毎週火曜日は多職種チームで回診し、入院患者様の上記のような症状・問題の解決に取り組んでいます。病棟の患者様で、疼痛・不眠といった症状をお持ちの方や、今後のことでお悩み方がいらしたら、ぜひ緩和ケアチームに相談できることをお伝えください。

外来では、がん患者様やご家族の治療に関する悩みや心配事に対して、臨床心理士による心理相談も行っております。さらに、がん患者様同士の交流の場として、月の第3火曜日に西病棟11階のレストラン(オリーブキッチン)でがんサロンを開催しております。がんでお悩みの方が気軽に集まり、話し合える場所として多くの方にご利用いただいております。

当センターでは医療スタッフを対象とした研修会・カンファレンスも定期開催しております。『緩和ケア研修会』は、緩和ケアについて基本的な知識・技術を習得することを目的としており、これまで300名以上のスタッフに参加していただいております。『緩和に関する地域連携カンファレンス』は、緩和医療に関わる医療・介護従事者のよりよい連携を目指し、毎年開催テーマを掲げ、複数回実施しています。今年度は7月から12月までの毎月、アドバンスケアプランニング(ACP)をテーマに開催いたしますので、がん診療に携わる多くの皆様にご参加いただけると幸いです。

緩和ケアセンター センター長
沼田 周助
特任助教
松田 宙也



写真 緩和ケアセンター スタッフ一同



NEWS・イベント大募集！

「Harmony」は、病院職員を対象に、院内情報の伝達や職員のコミュニケーションの活性化などを目的として発行しております。行事やイベントなどのNEWSや院内で周知してほしいTOPICSなどがありましたら、どんどん病院総務課広報・企画係(bsoumuss1@tokushima-u.ac.jp)までお寄せください。また「Harmony」で取り上げたら良いと思うテーマなど、ご意見・ご提案もお待ちしております。





地方 vs. 都会

病院執行部の院長補佐(教育・研究・地域連携担当)を拝命している腎臓内科の脇野修です。臨床研究のデータ利用に関する審査、病院データ開示請求の審査、地域医療支援に関することなどの仕事を行っています。特に地域医療支援センターでの仕事は、恐らく私が若い医師の流出先である都会、東京の大学から3年前赴任したので、都会の医師事情と徳島との事情が比較できる立場にあるとの期待で仰せつかっているものと感じております。

その若い医師の流出と関連し、よく学生や若い研修医は徳島県に残ると負け組だと言うことがあるそうです。東京に長いこと住んでいた経験から感じることは、それは経験のなさの故の感覚だと思います。というのも都会にあるのは交通アクセスや、コンビニが近いとか、夜が明るいとか、娯楽が多いといった利便性、快楽性のみで、人生の根本、成長にかかわるものは変わりません。それよりも都会にはサービスと称して必ずしも必須でない他人の財布を狙っているたくさんのビジネスシステムや徴税システムが待ち構えています。生活も余計な雑音が多く入り込みます。子供、若者の教育面も都会のほうが良いというのは私立学校法人医学部も含めて教育業者が彼らの事情で勝手にしのぎを削っているだけで、遊興費、生活費を含めると勉学、修行以外の余事が多い分、逆にコスパ的にはマイナスと思います。また、皆さんもご存知のように出生率の都道府県別ランキング(2022年)は東京47位(最下位)、大阪38位、神奈川43位で上位は沖縄、島根、宮崎県です。残念ながら徳島は24位でど真ん中ですが、少なくとも下位集団ではありません。そして出生率の高い県でよく言われる理由が、持ち家率が高い、地域の結びつきが強く、子育てがしやすい、雇用が安定しているといった側面です。なんで負け組なのでしょう？若い学生、研修医の発想は昭和の我々の世代が、「都で一旗揚げて」とか「おらこんな村いやだ」的な発想から変わってなく、ICT時代とは逆行した「おじさんと同じ発想」と感じます。それよりはしっかり自分を持ってから自分や自分のまわりを見つめなおし、それでも都会に行きたければ、都会に移住すればいいのです。その点は都会は優しく、いつでも受け入れてくれる用意があるのです。



知事も発想の若い人に代わって、若者の流失阻止にどんどん対策を打っています。このコラムを読む若い人は少ないかもしれませんが、若い人が、是非地域でしっかりと修業を積んで、今度は神戸とか大阪とかすっ飛ばして、世界に羽ばたいてほしいと願っています。

病院長補佐(教育・研究・地域連携担当)

脇野 修

写真 上: 若い医師が多い腎臓内科で頑張っています。

下: 眉山は毎週末よくロープウェイの横の山道から這い上ります。山頂からの雪化粧の景色



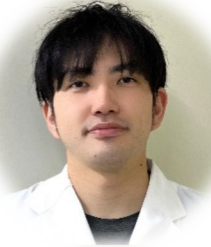
眼科 講師 柳井 亮二



はじめまして、山口大学より4月1日付で異動して参りました眼科医師の柳井亮二です。福岡県出身ですが、山口大学を卒業後は2年半のハーバード大学留学以外の約30年間で山口県で過ごしてきました。徳島は全くの初心者なのですが、食べ物の美味しさと人情味のあ

ふれる徳島県人の人柄にすでに魅了されています。山口大学では診療面では眼科のマイクロサージェリー、教育面では世界で活躍できる医師の卵と若手医師の育成を大切にしてきました。研究面では鯨の油(鯨油)を用いた治療薬の開発に力を入れています。鯨油にはオメガ3脂肪酸を中心に栄養成分が多く含まれており、眼の炎症抑制や黄斑疾患の予防効果を見出しました。徳島で実を結ぶことができるよう励んでいきたいと思ひます。休日は家の周りの散策をランニングするのが日課で、来年の徳島マラソンへの参加を計画しています。これから、どうぞよろしくお願い申し上げます。

むし歯科 医員 下山 真弘



4月より歯科むし歯科で医員として働いている下山真弘といいます。救急当番日は急性症状のある患者様の対応をしていて、それ以外の日は外来で患者様のむし歯治療、根管治療、歯周治療をしていて、診療時間外は研究等デスクワークを行っています。

休みの日は昼過ぎまで寝たりして家でダラダラすることが多いです。週明けから頑張れるようにしっかり休息をとるように心がけています。家でダラダラしているときはYouTubeをよく見ます。つい最近では、猫ミームという動画にドハマリしていました。

新年度となり環境も変わって大変なこともありますが、治療を受けに来られる患者様にとっては関係がないことですので、患者様にとって質の良い医療を提供できるように頑張っていこうと思ひます。

リハビリテーション部 理学療法士 植村 愛斗



令和6年4月より医療技術部に理学療法士として入職いたしました、植村愛斗と申します。

大学の講義・実技で、理学療法士について深く知ることができたこと、臨床実習で現場における理学療法を肌で感じたことが自分も先輩方のような理学療法士になりたいと志すきっかけとなりました。

これからの目標は、患者様との対話を通して個々の能力に合った理学療法の提供を実施できることです。日々の研修では先輩スタッフや患者様から多くのことを学ぶことができおり、充実した研修を行っております。

休日は友人と出掛けたり、1人でカメラを持ってサイクリングに行ったりして趣味の時間を楽しんでいます。一緒にサイクリングに行ってください方募集中です。

まだまだ未熟ではありますが、患者様に寄り添った理学療法を実施できるよう自己研鑽に努めて参りますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

かみあわせ補綴科 助教 小池 一幸



令和6年4月よりかみあわせ補綴科に赴任いたしました小池一幸と申します。大学卒業以来十数年ぶりに徳島に戻ってまいりました。私は、かみあわせ補綴科において、病院での歯科インプラントや摂食嚥下リハビリテーション、歯科用金属アレルギーなどの専門外来における診療のほか、基礎研究や学生教育なども担当しております。

休日は自然に囲まれてのんびり過ごすのが好きで、前任地の長野では山や高原での活動を楽しんでおりました。徳島では海辺で波の音を聞きながら穏やかな時間を過ごしたいと考えています。大学病院のような大きな組織での勤務は久しぶりで戸惑うこともありますが、よりよい医療を提供できるよう皆さまと協力していきたいと思ひます。ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

形成外科 医員 辻 友紘



はじめまして。令和6年度から徳島大学形成外科に入局しました辻知紘と申します。出身は高知県で大学は高知大学を卒業しています。研修を青森県の病院でしたのち四国に帰ってきました。趣味は釣りで寿司のネタになるような魚はほとんどすべて釣ってきました。学生

のころから太刀魚を釣りに徳島に何度か訪れていましたのでこれからも時間があれば釣りにいけたらなと思っています。

そんな私は今年度から形成外科を専攻します。形成外科を選んだ理由は治療結果が目で見え、幅広い年齢層の患者のQOL向上に貢献できるからです。また形成外科の職人気質な面にも魅了されました。

徳島県で働くのは初めてで知り合いもほとんどおりませんので声をかけていただけると嬉しいです。精一杯がんばりますので何卒よろしくお願い致します。

周産期母子医療センターNICU

看護師 吉野 風夏



令和6年4月に入職し、周産期母子医療センターNICUに配属となりました、吉野風夏と申します。当病棟では、主に早産児や低出生体重児、先天性疾患をもった赤ちゃんが入院しており、小児科や心臓血管外科、

眼科など院内の各診療科と連携のもと、24時間体制で、高度な医療と看護を提供しています。疾患が多岐に及ぶことや繊細な技術が求められることに加え、赤ちゃんの全身状態を細かく観察しながら、泣き方や表情、バイタルサインなどから訴えを汲み取らなければならないため、難しさを感じることも多いです。しかし、先輩方のご指導のもと、NICUでの看護師の在り方について学びながら、充実した毎日を送っています。

休日はライブに行くなど、リフレッシュすることで、日々の業務とのメリハリをつけるようにしています。

これから経験を積んでいく中で、豊富な知識と技術を身に付け、赤ちゃんをご家族に寄り添った看護を提供できるよう努めてまいります。